

人・自然・文化がおりなす 活力とやさしさのあるまち 飛驒高山

市では、このたび平成27年度から10年間のまちづくりの指針となる第八次総合計画を策定しました。本市の魅力、財産である「人」・「自然」・「文化」がさまざまな形で組み合わせたり、活かし合うことにより、新たな活力や元気が生まれるとともに、やさしさがあり、幸せが感じられるまちを目指してまいります。



市をとりまく社会情勢

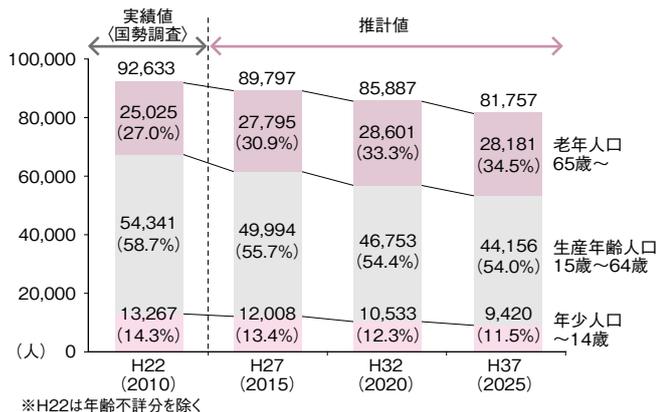
- ◆人口減少・少子高齢化が本格的に進展しています
- ◆経済環境が大きく変化しています
- ◆環境、エネルギー問題が顕在化しています
- ◆人々の安全、安心意識が高まっています
- ◆人々の価値観やライフスタイルが多様化しています
- ◆地方をとりまく財政状況が深刻化しています

10年後の高山市の人口は？

本市の人口は、計画初年度の平成27年に9万人を割り込み、計画期間中は年間800人程度の減少が見込まれます。

生産年齢人口は、平成22年と比べ、1万人以上減少し、労働人口の減少に伴う産業構造の変化、経済活動の縮小、税収の減少などの影響が予想されます。

老年人口は、平成22年と比べ、約3,200人増加し、3人に1人以上が高齢者となります。医療、介護、年金などといった社会保障経費の増加などの影響が予想されます。



次世代のための設計図

― 第八次総合計画の策定にあたって ―

― 10年後に「こんなまちになってほしい」 ―

そのために毎年何をすべきか ―

その設計図が総合計画です。

計画の策定にあたり市民の皆様をはじめ、多くの団体のご協力をいただくとともに、議会での検討を重ねていただきましたことをお礼申し上げます。

さて、一度描いた設計図はこれで終わりではございません。本市をとりまく環境の変化と市民の皆様のニーズをとらえながら、毎年評価して見直す柔軟なものとしています。

― 子どもたちが夢を語り合える未来をきちんと残したい ―

この総合計画を通じて、市政に対するご理解をより一層深めていただき、未来の高山市をお考えいただく一助になれば幸いです。一緒に将来を築いていきましょう。



高山市長
くにしま
芳明
みちひろ

これからのまちづくりは